

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成15年度 第4号 2003年11月26日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により実施されたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

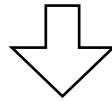
- ・調査期間：平成15年11月10日～11月20日
- ・調査海域：道南太平洋の水深200～500m海域

分布の中心は、地球岬東方沖（海区番号182、184、185）

分布密度の高い水深は300～400m（例年より深い）

海域全体の分布量は増加（平成13年度並）

魚群の移動が早く、分布が安定せず



漁獲が上向くのは12月以降

12月以降の漁獲量は4万トン前後（定置網除く）の予想

1. 地球岬東方沖：海区番号182、184、185に強い反応が観察されました（図1）。
2. 分布密度は渡島側海域では400m前後、胆振海域では300-350m、日高海域では300mの深い水深帯に観察されました（図2）。
3. 調査海域の平均反応量（渡島-胆振支庁）は、9月より増加しました。また、11月の調査結果としては平成13年度並となっています（図3）。
4. 10月末の調査で反応の観察された鹿部および砂原沖（海区番号188-189、192-193）の反応は再び薄くなっていました。魚群の分布が週単位で変動しており、今回の調査結果からは、渡島側への魚群の移動は確認できませんでした。
5. 魚群の分布水深が深いこと、日中でも魚群が海底から離れていることから、漁獲が上向くのは12月以降になると考えられます。
6. 過去の11月調査時の平均反応量と漁獲量の関係から判断して、今後、渡島側へ魚群が移動した場合には、12月以降の漁獲量が4万トン前後（定置網除く）になると予想されます（図4）。漁期はじめの予想（3万トン前後）をやや上回る可能性があります。
7. 次回調査は、平成16年1月中旬を予定しています。

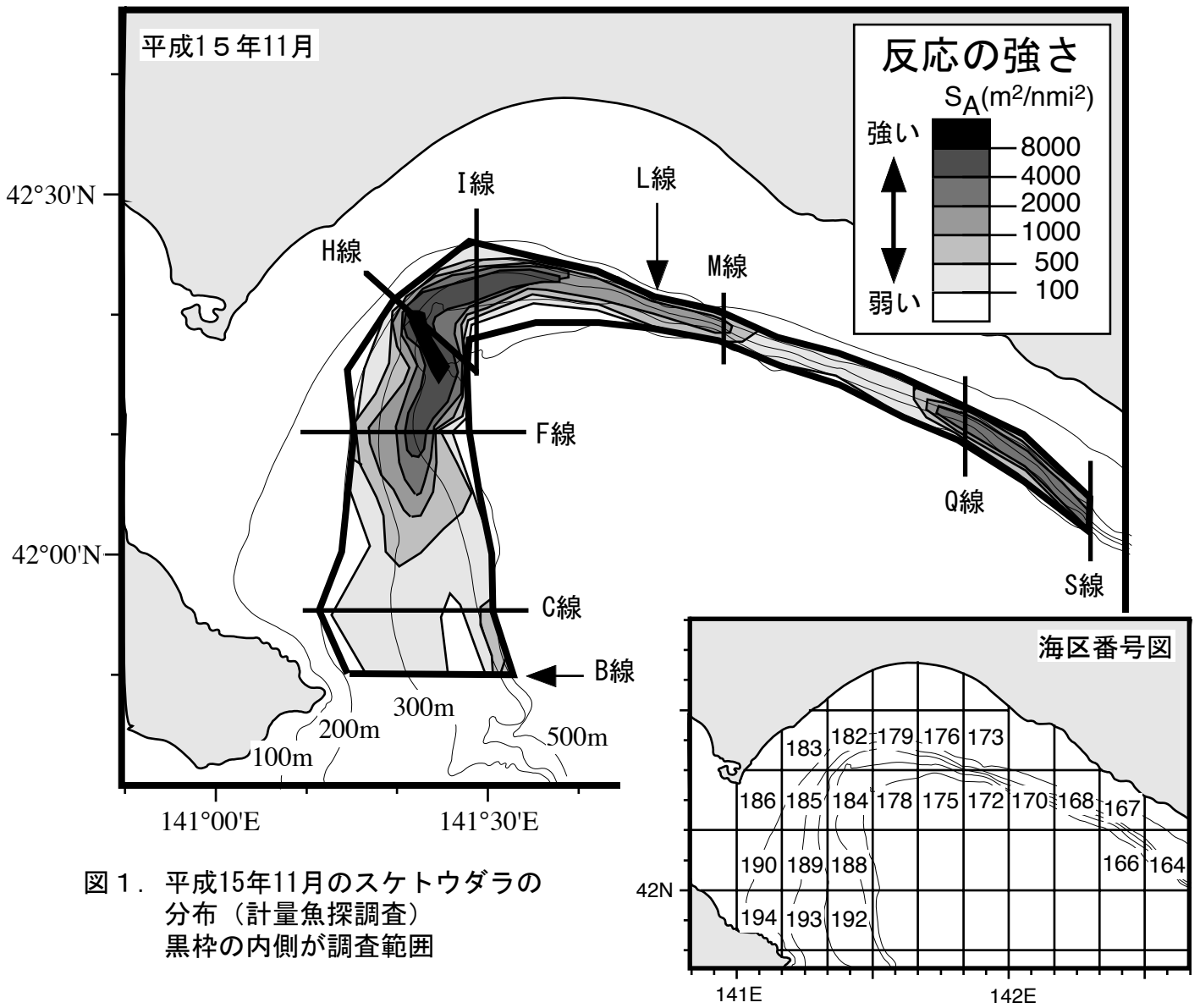


図1. 平成15年11月のスケトウダラの分布 (計量魚探調査)
 黒枠の内側が調査範囲

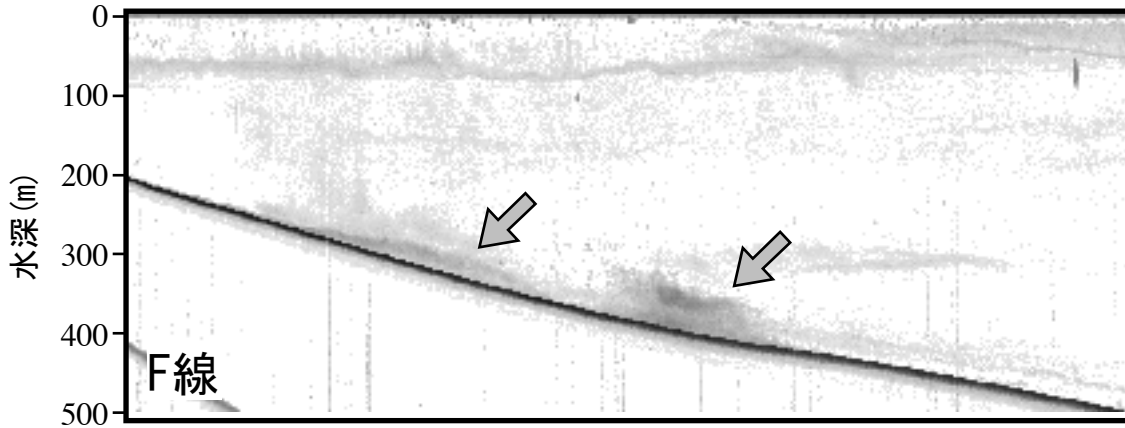
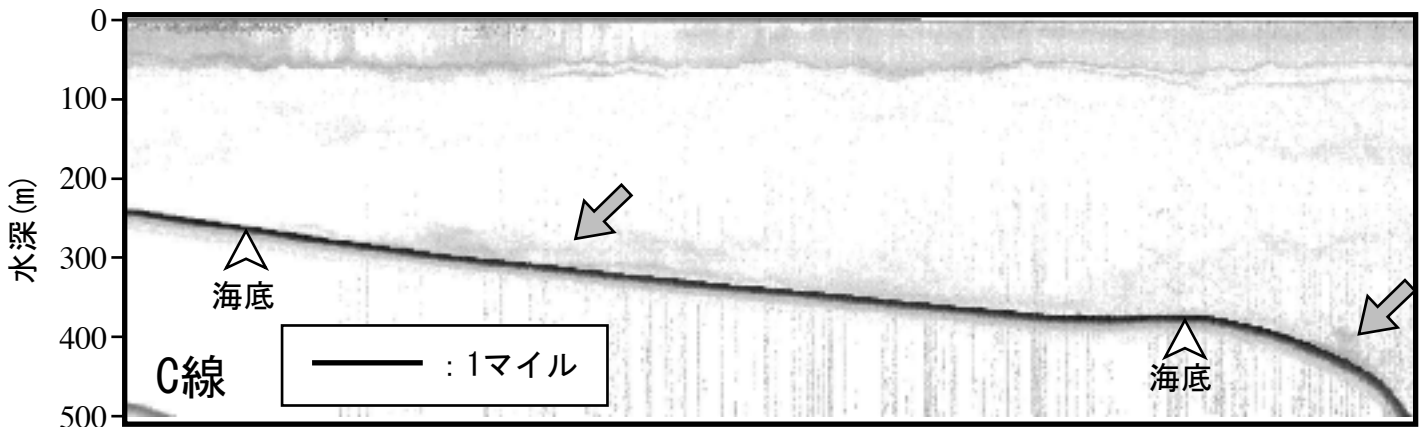


図2. 平成15年11月の魚探画像

←
 スケトウダラと
 考えられる魚群

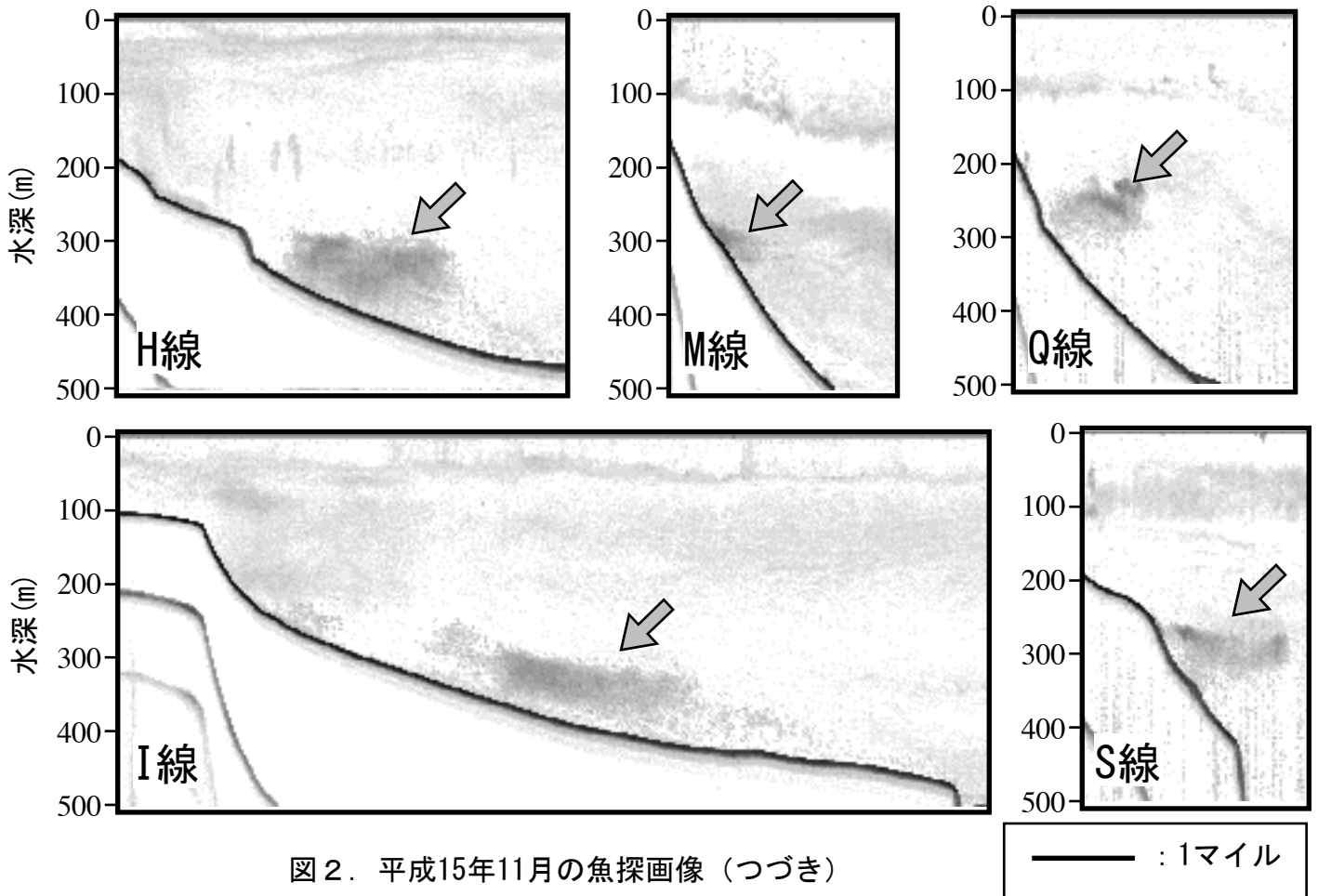


図2. 平成15年11月の魚探画像 (つづき)

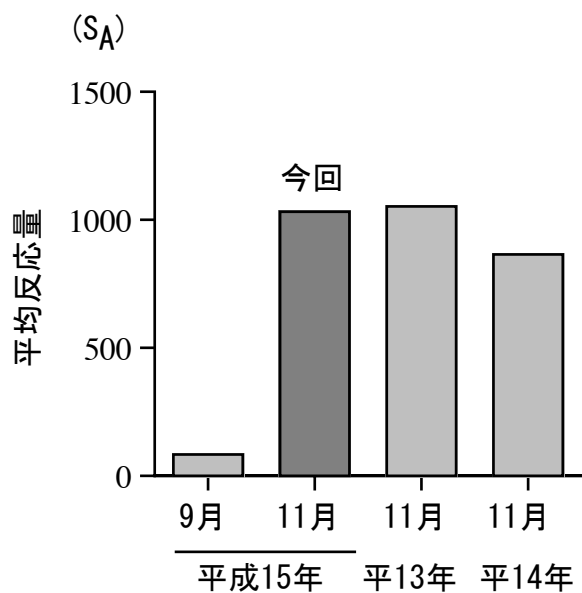


図3. 調査海域の平均反応量
計算範囲はB~L線

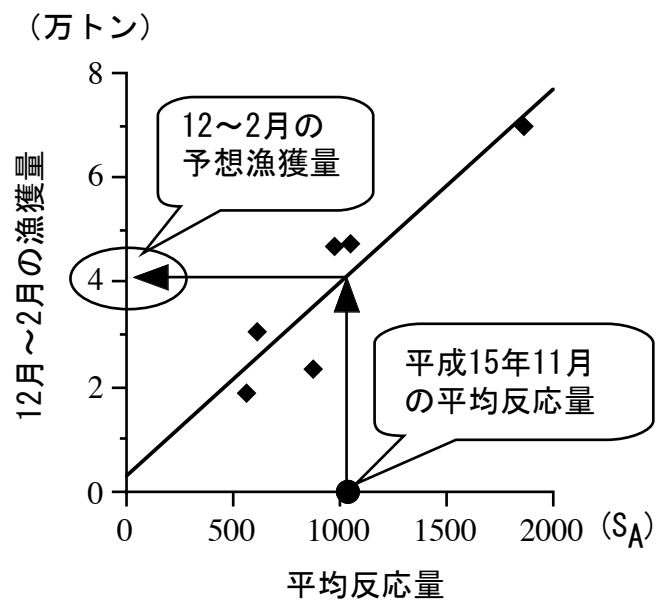


図4. 11月調査の平均反応量 (平成9~14年調査) と12~2月の漁獲量 (定置網除く) の関係